支部研修　事例

A氏　74歳　女性

＜既往歴＞特になし

４０歳代から健診で高血圧と高脂血症、不整脈を指摘されていたが、特に自覚症状がなかったため放置していた。

＜現病歴＞

７月に入るころから動悸や息切れ、両足背の浮腫みが見られるようになった。自分でも気にしてそのうち受診しようと思ってはいたが、どこに受診すればよいか分からず、そのままとなっていた。

７月２４日朝、畑で倒れているところを近所の人が発見し、B病院へ救急搬送されうっ血性心不全と心房細動と診断され入院となる。降圧剤や利尿剤の投与、食事療法にて症状が軽快し退院方向となる。今回の入院を機に介護保険を申請し一次判定で要介護2程度ではないかと言われている。

＜家族構成＞

一人暮らし。夫は３年前に脳梗塞で他界。長女と長男は県外で生活している。兄が隣の市に住んでいるが、脊椎管狭窄症のため歩行が不安定で要介護3の認定を受けている

＜本人の趣味・意向＞

家庭菜園で花や野菜を作り、近所の人に配って喜んでもらうのが生き甲斐になっている。特に自分で作った野菜で作る漬物は好評で、いくつもの容器に作っている。

本人は、近所の人が待っているので、みんなの為にも漬物を作りたいと話している。食事は自分で作れるので、入院中の出た食事を参考に自分で作ろうと考えているとのこと。

＜家族の意向＞

長女・長男とも仕事をしているために、介護の為に実家に帰って来ることは難しいとのこと。出来るだけ自分のことは自分でしてもらい、介護保険を利用して生活してもらいたい。月に１～２回程度様子を見に来るようにはしますとの言葉も聞かれている。